

第4章

WORK

第一産業では、主要産物のいちごやアスパラガス、花卉栽培も盛んで、小養地区の山南営農組合も活動の幅を広げています。本町では、それらの農産物の栽培方法や経営のノウハウなど先進農家の指導を受けることができ、香川県農地機構との密接な連携で農地情報も提供、また支援資金や融資制度も充実し、就農をトータルにサポートする体制が整っています。

働き方はモォーっと
いろいろあって
いいんじゃないかモォ～

また、工業分野では、直接消費者とつながる産業は少ないかもしれませんが、希少糖入りのこんにやく加工品製造や道路標識などで高いシェアを誇る企業、高速のサービスエリアに700種類もの土産品を卸す企業、世界的アクリルパネルメーカなど、最先端の技術や全国で通用する商品力を持つ企業が多く存在します。

『こんにやく界の革命児 元祖マンナンレバー』

ハイスキー食品工業

こんにやく界の革命児 元祖マンナンレバー。“レバ刺しそっくりのこんにやく”として旋風を巻き起こしました。

見た目のユニークさは話のネタに最適。こんにやくと思えないほどレバ刺しの味わい、食感に近く、なおかつ低カロリー。



レバ刺し風こんにやく
元祖マンナンレバー



マンナンスムージー



株式会社 森のいちご
代表 本田 龍さん

『ある日、
森の中、くま園長さんに
出会った～♪』

「体重20kg減だから、前回の町勢要覧の写真と全然違うね(笑)」笑顔でそう話す、代表の本田さん。ホームページでも、笑顔の写真とともに『くま園長』と紹介されており、本田さんの親しみやすさがにじみ出ています。

そんな『くま園長』が手掛ける『森のいちご』では、総面積3,870坪(12,900m²)、ビニールハウス10棟でいちごを栽培しています。従業員は7名(内男性5名)で、平均年齢は32歳です。

くま園長は、いちご狩りだけでなく、『ゲームコーナー』や『動物ふれあい広場』、『うどん割(うどんを食べてきた人は100円引き)』など、面白いコンテンツをたくさん作っています。それは、『子どもが大人になっても来なくなるような、“最高の思い出作り”の場にしたい』という強い思いからです。

「今後は、森のいちごをテーマパーク化したい。いちごで染物ができたり、いちごの加工品が作れたり様々な体験ができ、宿泊もできる。そんな観光農園にしたいです。」

『1人でやるには
限界がある。
じゃあ”協働”で
やっていこう！』

「JAの元々の始まりは、『1人でやるには限界がある。じゃあ”協働”でやっていこう!』というところから。

だから、現在でも『みんなで力を合わせて』ということを重視しています。

若い担い手も増え、今までと同じやり方ではいけないと思っているので、時代に合わせた指導等を行っていきたい。また、情報交換できるような場を作ったり、人(担い手、働き手)を手配したりということも考えています。



香川県農業協同組合
中央地区営農センター
センター長
谷井 弘さん

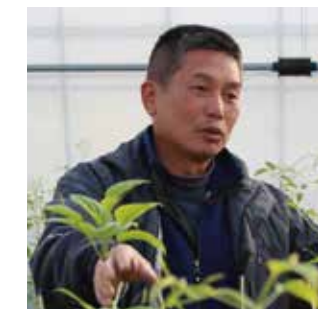
『夢は、ハウス面積10,000坪！』

広大なビニールハウスの中で多くの草花を育てている石原さん。しかし、最初からそんなに成功ばかりというわけではないそうです。

「自分に先生はいません。独学で試しては失敗、試しては失敗を繰り返して、成功につなげてきました。」その結果、ブーケを作る際に用いられる『リキュウソウ』や、生産者が減少している『ケイトウ』、1株2,000円ほどの人気の高い『クレマチス』など、育てる種類が増えていきました。

また、育てる環境の整備も欠かさず行い、ハウス内は冷暖房完備かつ特殊なLEDも設置しており、温度や光の管理をすることで、1年を通して栽培ができる環境を整えています。

「今後はハウスの面積を3,000坪(約9,900m²)から10,000坪(約33,000m²)まで広げたいと思っています。ゆくゆくは三木町が花の産地と言われるまで発展させたい。また、出荷の効率性を高めるために、全国の花業者が連携できるような配送ルートを整備したいです。」



株式会社 石原
代表取締役 石原 和昭さん

『ミルクの量は
愛情に比例する』

広野さんは2代目として、現在、乳牛30頭・和牛17頭・子牛60頭を育てているほか、ジェラテリア『MUCCA』2店舗、ピッツェリア・チーズ工房『VACCA』1店舗を開くなど、酪農だけでなく、牧場でとれたミルクの加工・販売まで行っています。また社員は26名(内女性が7割)おり、平均年齢31歳の若い力あふれる会社です。

「うちの自慢は、牛たちに対する愛情の大きさです。」と笑顔で語る広野さん。牛の行動管理をAIで行ったり、常につま先立ちで歩く牛のために牛削蹄師を呼んで牛の蹄を削ったり、『牛たちがどれだけ快適に過ごせるか。』を常に1番に考えているとのこと。

「今後は、VACCA・MUCCA周辺を発展させたいです。宿泊施設や農業体験の施設整備を進め、子どもの時から農業に触れられる場を作り、農業のイメージアップにつながればと思っています。」



有限会社 広野牧場
代表取締役 広野 豊さん